

令和5年度 愛南町立緑小学校
年度末学校評価書



令和6年2月

令和5年度 後期自己評価書

愛南町立緑小学校

【評価基準】 A：目標を達成 B：8割以上達成 C：6割以上達成 D：6割未満

※ 水色は肯定率がUp、桃色は肯定率がDown（中間期と比べて）

(※補足)評価資料欄の「児童1」や「保護者10」等の語尾の数字は、アンケート質問文の番号です。

重点 目標	○番号：評価項目 目標値（期待される結果）	評価	◇ 考察 ◆ 改善方策	期	評価 資料	個別 評価	肯定率 4+3	アンケート結果(%)			
								4	3	2	1
確 かな 学 力 の 定 着 と 向 上 （ し っ か り 勉 強 ）	①【学校】児童は、授業の内容がよく分かっているか。 目標値：児童と教職員の両方の肯定率が100%	B	◇子ども100%、教職員87%と、肯定率は中間期と同じだが、子どものアンケート結果では中間期では8割近くあった4評価が約6割に減っている。2学期は練習が必要な学校行事が多く、じっくりと学習に取り組んだ印象が1学期よりも薄かったのではないだろうか。しかし、単元テストの平均では、国語は14点、算数は1点上がっており、学習内容の理解や学力の向上につながったことがうかがえる。 ◆3学期は学校行事が少なく、学習にじっくり取り組む時間が確保できる。学年のまとめを計画的に行い、子どもの苦手意識の軽減に努め自信を持って進級できるようにしていく。	中間	児童1	A	100	78	22	0	0
				年度末	児童1	A	100	59	41	0	0
				教職員1	B	87	25	62	13	0	
93.5 ← 年度末肯定率平均											
				国語、算数の 単元テスト平均		国語		算数			
				中間期		75.2		83.4			
				後期		89.4		84.6			
	②【学校】児童は、家庭学習の習慣が身に付いているか。 低：1日45分以上 中：1日60分以上 高：1日90分以上 目標値：児童・教職員・保護者の肯定率が全て90%以上	B	◇肯定率は、中間期より増加している。教職員の評価は中間期BからA評価に上がり、全体での評価は上昇しているものの、子ども・ご家庭の評価は中間期とほぼ変わっていない。本アンケート後に取った別の調査では、目標学習時間を達成できたのは低学年のみだった。 ◆自主学習の仕方について、学習の仕方の例をもう一度学級で確認して、自分に合ったものを学級担任と一緒に考え実践していく。また、週末については、各自がパソコンを自宅に持ち帰るので、ノートやプリントに手書きする学習だけでなく、パソコンで入力する問題も使って、それぞれの学習意欲に合わせた学習に取り組ませる。 ◆今の学習の設定時間が適切かどうかを検討する。	中間	児童4	B	83	33	50	11	6
				年度末	教職員2-1	B	80	0	80	20	0
				教職員2-2	B	86	14	72	14	0	
85.3 ← 年度末肯定率平均											
				児童4		B	82	29	53	18	0
				教職員2-1		A	100	20	80	0	0
				教職員2-2		A	100	20	80	0	0
				保護者10		C	59	24	35	29	12
	③【学校】児童は、読書の習慣が身に付いているか。 低：月10冊以上 中：月8冊以上 高：月5冊以上 目標値：多読賞達成率、児童や教職員の肯定率の平均が90%以上	B	◇中間期に比べ、教職員の評価がよくなった。読み聞かせや読書集会の実施、毎週金曜日は必ず図書を借りるように声掛けをしていることが理由として考えられる。また、読んだ本を必ず「みきゃん通帳」に入力するようにし、誰がどのような本を何冊読んだか、確認できるようにしたのもよかった。しかし、子どもの「読書が好きか」という質問に対しては、評価が下がっている。本に親しむための働きかけにより読書量は増えているが、子ども自ら「本を読みたい」という意欲を持って読書に取り組むまでには至っていない。 ◇地域の方による読み聞かせは、子どもたちはもちろん、講師の方も楽しみにしていただいている。地域と一緒に楽しみながら、読書習慣を身に付けさせたい。 ◆読み聞かせや「みきゃん通帳」への入力を継続していきたい。さらに、子ども自ら「本を読みたい」という意欲を持てるように、おすすめの本コーナーを設置したり、読んだ本を紹介し合う場を設けたりし、子どもが夢中になれる本に出会えるようにしたい。	中間	多読賞 達成率	17					
				年度末	児童5	A	94	61	33	6	0
				教職員3	C	60	20	40	40	0	
74											
				児童5		B	88	59	29	6	6
				教職員3		A	100	29	71	0	0
87.3 ← 年度末肯定率平均											

学校アンケート内容
授業はよく分かりますか。
1人1台端末の活用、協力的な学び、予習と授業との連動などが行えていますか。

毎日、家(+緑子ども塾・学習塾)で勉強をしていますか。
(1人1台端末の活用、個別最適な学び、家庭学習ノートの活用)(低・中・高学年のそれぞれの目標学習時間に応じた課題の与え方のくふう)などにより、子どもは家庭学習の習慣が身に付いていると思いますか。
子ども達は、低・中・高学年に応じた目標学習時間(45・60・90分間)、学習に取り組んでいるか。
お子様は、低・中・高学年に応じた目標学習時間(45・60・90分間)、学習に取り組んでいますか。

読書は好きですか。
(図書館利用の促進、みかん通帳の活用、読み聞かせ、読書集会など)により、子ども達は読書習慣が身に付いていると思うか。

学校運営協議会	<p>(項目①) ○国語科や算数科の授業を見る機会が増えれば、保護者が分かりやすいと思う。⇒参観授業での、国語科や算数科を含めた教科・題材のバランスに気を付けます。 ○学習活動を保護者や地域と共有するような取組に近づけば、学習時間の確保以上に内容の理解・定着や学力向上につながるのではないかと。⇒行事等も含め活動を精選し家庭・地域と連携した取組を目指します。</p> <p>(項目②) ○対象の学習時間には「緑子ども塾」や一般の学習塾の時間も併せているので、目標時間としては無理な設定ではないと思われる。⇒改めて検討・確認をいたします。 ○家庭学習の習慣化については、教職員の肯定率は上がっており、努力のあとがうかがわれる。一方、児童や保護者の肯定率はあまり変わっていない。特に、教職員と保護者の肯定率の差をしっかりと分析し対応を考えていく必要がある。⇒各種通信の内容や参観授業のあり方等の工夫を通して、取組について知っていただき、ご家庭の意見等を今まで以上に汲み取ってまいります。 ○ICT等を活用することは分かったが、その具体的な活用を掘り進めてほしい。それが定着化につながる。⇒まず、各児童のPCを家に持ち帰る日を週末だけでなく、平日にも拡大したいと考えます。持ち帰る回数は、学年や個人の実態に応じて設定いたします。</p> <p>(項目③) ○はっきりと成果が出ている。このまま継続していけば、目標値も達成できるのではないだろうか。ただ、そんな中で読書好きな子ども、苦手な子どもの差が大きくなってきているのではないかと心配する。学力の向上にもつながるので、読書習慣の定着や読書好きな子どもが増える取組をお願いしたい。⇒推薦図書のコーナーの設置や読んだ本を紹介し合う場の設定等を通して、それぞれの児童が、自ら好きな本を見つけ、読みたくなるような取組をしていきます。 ○多読賞の達成率、教職員の肯定率ともに上昇し、取組の成果として評価できる。全体での指導と併せて、読書があまり好きではないと答えている児童に対して個別の働きかけを工夫していくことも大切である。⇒同上</p>
---------	--

【評価基準】 A：目標を達成 B：8割以上達成 C：6割以上達成 D：6割未満

※ 水色は肯定率がUp、桃色は肯定率がDown（中間期と比べて）

(※補足)評価資料欄の「児童1」や「保護者10」等の語尾の数字は、アンケート質問文の番号です。

重点 目標	○番号：評価項目 目標値（期待される結果）	評価	◇ 考察 ◆ 改善方策	期	評価 資料	個別 評価	肯定率 4+3	アンケート結果(%)			
								4	3	2	1
生徒指導の徹底と健全育成（みんな仲よし）	④【学校】児童は、楽しく学校生活を送っているか。 目標値：児童・保護者の100%が肯定	B	◇中間期より子ども、ご家庭ともに肯定率が減少し、評価1・2が上昇している。特にご家庭については、肯定率の減少が大きい。子どもの気持ちとご家庭から見た子どもの様子が重なっていた。ご家庭の自由意見の中には、「毎日楽しく一生懸命に過ごしている」というご意見の一方で、休み時間等、授業中以外での様子についても配慮してほしいというご意見もあった。 ◆授業中だけでなく、休み時間等の子どもの交流について、これまで以上に継続して配慮するとともに、子どもたちが友達のことを互いに思いやり、学校が楽しいと感じるような仲間づくり（集会・全校遊び等）や授業・行事に取り組んでいきたい。また、担任だけでなく全職員で情報交換をしながら、学校全体で子ども理解に努めていきたい。	中間	児童6	B	94	88	6	0	6
				保護者1	B	94	55	39	6	0	
				年度末	児童6	B	88	70	18	0	12
							82.0 ← 年度末肯定率平均				
生徒指導の徹底と健全育成（みんな仲よし）	⑤【地域】児童は、地域の人に気持ちのよい挨拶ができていますか。 目標値：児童・保護者・地域・教職員の100%が肯定	B	◇中間期に比べ、年度末の肯定率は少し減少した。子どもについては評価4が50%から88%になり、挨拶を頑張っているという自己評価の高さがうかがえる。ご家庭・地域の評価については、中間期より評価2が増加し、子どもや教職員との結果に違いが見られる。地域の方の意見にもあったが、家や地域の中での挨拶が、学校での挨拶と違いがあると思われる。 ◆挨拶の指導を集団下校や学級で取り上げ、気持ちのよい挨拶ができる子どもを称揚しながら、元気のよい挨拶が周りを明るい雰囲気することに気付かせたい。	中間	児童9	B	94	50	44	6	0
				保護者2	B	89	39	50	11	0	
				保護者3	B	89	45	44	11	0	
年度末	地域住民1	B	93	64	29	0	7				
	教職員6	A	100	38	62	0	0				
	児童9	A	100	88	12	0	0				
							91.0 ← 年度末肯定率平均				
生徒指導の徹底と健全育成（みんな仲よし）	⑥【教職員】教職員が児童を深く理解しているか。 目標値：児童、教職員、保護者の100%が肯定	B	◇平均肯定率は中間期より増加しているが、ご家庭の1・2の評価が増加している。ご家庭の自由意見の中には、「友達のことを気にして優しい心が育っている。学校も生徒それぞれに寄り添って良い学校にしよう」と努力している」との一方で、項目④の考察にもあるように、休み時間等、授業中以外での様子についても配慮してほしいというご意見もあった。 ◆まだ、子どもたちについて見落としや寄り添えていない部分がある。今後も授業中だけでなく休み時間等の学校生活の中で、子どもの様子をしっかりと見つめるとともに、毎月の生活アンケート結果や子どもを見つめる会、教育相談の内容を基に、子どもたちを深く理解していきたい。その際、現状の把握や数値に安心することのないようにしたい。	中間	児童18	A	100	100	0	0	0
				保護者11	B	94	50	44	6	0	
				教職員4	B	86	43	43	14	0	
年度末	教職員7	A	100	38	62	0	0				
	教職員8	A	100	38	62	0	0				
	児童18	A	100	88	12	0	0				
							95.2 ← 年度末肯定率平均				

学校アンケート内容
学校は楽しいですか。
お子さんは、楽しく学校生活を送っていると思いますか。

相手が笑顔になるような気持ちのよい挨拶ができましたか。
お子さんは、家庭で気持ちのよい挨拶ができていますか。
お子さんは、地域の人たちにも気持ちのよい挨拶ができていますか。
児童は地域の人たちに気持ちのよい挨拶ができていますか。
児童は、地域の人たちに気持ちのよい挨拶をしていますか。

先生は、あなたの話をよく聞いてくれますか。
学校は、児童について深く理解しようとしていると思いますか。
あったか言葉の推進や緑っ子いじめSTOP八条の憲法の実践の徹底をしていますか。また、いじめを多面的・多角的に理解し認知しようとしたか。
主体的な行動選択ができる工夫や児童の言動を褒める教育に努めましたか。
感謝の言葉の大切さを伝えるとともに、緑っ子レターなどで自他を認める機会をしっかりとりましたか。

(項目⑤)
 学校運営協議会
 ○児童の回答4が大きく増加していることは学校の取組の成果であると評価できる。一方、保護者や地域のアンケート結果では、肯定率は下がっており、考察にもあるように学校ではできている挨拶が家庭や地域の中ではできていないことも考えられる。また、全体ではよく挨拶はできているが、一部のできない児童がいるという意見もあった。コロナ禍以降、児童と地域の一般住民との関わりが希薄になっていることも影響しているのではないかとこの意見もあり、学校での取組と併せて、地域の協力も必要である。⇒同じ子どもでも家庭・地域と学校で挨拶の様子が違う。個人差だけでなく、「人に挨拶をする」のではなく「ある場所に来れば挨拶をする」という習慣になっているのではないかと考える。職員室前に来ると必ず挨拶をすることがその例である。「人に挨拶をする」のではなく「場所で挨拶をする」のである。そのような点も意識しながらご家庭や地域との関わりを深め、子どもたちに声掛けをしていきたい。

【評価基準】 A：目標を達成 B：8割以上達成 C：6割以上達成 D：6割未満

※ 水色は肯定率がUp、桃色は肯定率がDown（中間期と比べて）

(※補足)評価資料欄の「児童1」や「保護者10」等の語尾の数字は、アンケート質問文の番号です。

重点 目標	○番号：評価項目 目標値（期待される結果）	評価	◇ 考察 ◆ 改善方策	期	評価 資料	個別 評価	肯定率 4+3	アンケート結果(%)			
								4	3	2	1
人権・ 同和教育の 充実	⑦【教職員】道徳科を中心に教育活動を通じて児童の人権に関する考えを深めたり広げたりしているか。 目標値：児童と教職員の肯定率が100%	B	◇中間期と比べると、子どもの肯定率は変化していないが、評価3と4とで分けてみると、評価4が下がり、評価3は上がっている。教職員の肯定率は、20%アップし100%となっている。その20%増加の内訳は、評価4が18%、評価3が2%である。事前に資料を読ませ1人1台端末を活用することで対話的な学びにつなげたり、議論する授業につなげたりすることで人権について深く考え広げようと努めてきたが、教職員が取り組んだほどの成果は、出ていなかったと考えられる。 ◆道徳科の取組（授業）の質を高めるために、後半から年間指導計画に人権教育の3つの視点を明記している。 3つの視点とは、 ①個別の人権課題 ②人権教育における普遍的な視点 ③人権を通じて育てたい資質・能力である。今後の道徳の授業は、この3つの視点を意識して行い、道徳教育を実践したい。	中間	児童8	B	94	61	33	6	0
				教職員5	B	80	20	60	20	0	
				年度末	児童8	B	94	47	47	6	0
				教職員5	A	100	38	62	0	0	
97.0 ← 年度末肯定率平均											
特別 支援教育の 推進	⑧【教職員】個々の児童の特性や困難さに応じて指導しているか。 目標値：児童、教職員、保護者の肯定率が全て100%が肯定	B	◇中間期と同様に、研修会で子ども一人一人の共通理解を図り、全教職員で個に応じた支援を継続して行っている。心配な子どもに対しては、各支援計画を作成し、より充実した支援に努めた。また、専門機関と連携し、子どもやご家庭へのより良い支援方法も確認している。評価としては、ご家庭の肯定率は下がっている。 ◇ご家庭からの自由意見の中に、終業時刻の確認の行き違いや行事での大きな音への配慮不足へのお願いがあった。個に応じた取組をしていく上でご家庭との基本的な連携・確認等ができていないことがあった。 ◆今後もしもできる限りご家庭の思いに寄り添いながら、子ども一人一人の特性や困難さの共通理解を教職員で図り、個に応じた支援を継続していきたい。その際、専門機関との連携をさらに充実させる必要がある。また、ご家庭との連携・確認を確実にしたい。	中間	児童12	A	100	89	11	0	0
				保護者12	B	94	50	44	6	0	
				教職員9	B	86	29	57	14	0	
				年度末	児童12	A	100	65	35	0	0
				保護者12	B	82	35	47	12	6	
				教職員9	B	87	49	38	13	0	
89.7 ← 年度末肯定率平均											
学校 運営 協議会	(項目⑦) ○教職員の肯定率が上がったのは、学校が対話的な学びや議論する授業づくりに積極的に取り組んだ表れてであると考え。一方、児童の肯定率は変化がなく、成果としてはあまり表れていないと考えられる。その要因を検討し、改善方を工夫して行ってほしい。⇒道徳の授業を人権教育の視点を明確に意識して進めることで、議論する活動の充実した取り組みにつなげてまいります。 (項目⑧) ○学校としては、全教職員で児童理解に努め、個に応じた指導を行っていると述べており、日ごろの様子からも学校の取組は評価できる。⇒考察にあるような学校の取組をご家庭と十分に共有するとともに、その土台となる連携・確認等をしっかり行い、よりよい支援につなげられるよう努めてまいります。										
	学校アンケート内容										
	道徳の授業で、いろいろな感じ方や考え方で話し合いましたか。 道徳科を中心に多様な感じ方・考え方・価値観の尊重、対話的な学びづくりなど議論する活動に努めているか。										
先生は、あなたが困っているときに 解決方法を一緒に考えてくれますか。 学校は、お子さんの特性や困難さに寄り添った指導をしていると思いますか。 特性の理解、困り感の解消方法の提示など、合理的配慮の提供をしているか。											

【評価基準】 A：目標を達成 B：8割以上達成 C：6割以上達成 D：6割未満

※ 水色は肯定率がUp、桃色は肯定率がDown（中間期と比べて）

（※補足）評価資料欄の「児童1」や「保護者10」等の語尾の数字は、アンケート質問文の番号です。

重点 目標	○番号：評価項目 目標値（期待される結果）	評価	◇ 考察 ◆ 改善方策	期	評価 資料	個別 評価	肯定率 4+3	アンケート結果(%)				学校アンケート内容
								4	3	2	1	
健康 教育の 推進 (つよ いから だ)	⑨【家庭】児童は「早寝・早起き」の習慣が身に付いているか。 目標値：児童・保護者の100%が肯定	C	◇今年度は、睡眠の「量」だけでなく「質」を上げられるように、校長講話や学校保健委員会での食事や睡眠の講話、保健だよりでの食事の選び方の掲載・啓発、寝つきが悪い子どもへの個別の保健指導等を行った。アンケート結果を見ると子どもとご家庭の結果に若干の差異はあるものの、中間期に比べると全体的に評価が下がっていた。取組や啓発の仕方の工夫をさらに深く検討していきたい。 ◆日によっては、夜遅くまでのネット動画の視聴やゲームの使用が影響し眠気を訴える子どももいる。睡眠時間の確保の啓発のためにも、電子機器の使用のし方についても継続してお願い・啓発していきたい。また、講話や各種たよりの内容を家庭になじみやすいテーマ・内容にするなど、ご家庭で話し合ってもらえるような素地を作りたい。	中間	児童13	B	83	28	55	17	0	早寝・早起きは できていますか。 お子さんは、早寝・早起きの習慣が身に付いていると思いますか。
	保護者4	B	83	44	39	17	0					
				年度末	児童13	C	76	41	35	18	6	
					保護者4	C	64	12	52	24	12	
					70.0 ← 年度末肯定率平均							
	⑩【家庭】児童は「朝ごはん」の習慣が身に付いているか。 目標値：児童・保護者の100%が肯定	B	◇中間期と比較すると、ご家庭の評価2があるものの、子どもは評価4の割合が上がっており、ご家庭においても肯定率が上がっている。学校保健委員会での栄養教諭による講話等の取組で、朝ごはんに関する関心は高まっているように感じる。ただ、朝の過ごし方について日ごろの子どもとの会話の中で耳にする声には、「時間がなかった」、「食欲がなかった」というものもあった。学校保健委員会での質疑応答の時間には、ご家庭から「用意をしても子どもが少量しか食べない」、「食欲がわかず食べられない」という悩みもあった。アンケート結果には出ていない課題が隠れているように考える。 ◆朝食を食べる環境には、体調や食べる量等の個人差、家庭差があるため、親も子どもストレスをためないようにするとともに、①子どもが食べやすいメニューの工夫 ②前日のおやつや夕食時間、就寝時間の設定の工夫 ③起床時間の工夫や睡眠習慣の改善等を各種通信等機会を見つけて提案していきたい。	中間	児童14	A	100	89	11	0	0	朝ごはんは 食べていますか。 お子さんは、朝ごはんを食べる習慣が身に付いていると思いますか。
				保護者5	B	89	89	0	11	0		
				年度末	児童14	A	100	82	18	0	0	
					保護者5	B	94	88	6	6	0	
					97.0 ← 年度末肯定率平均							
学校 運営 協議 会	<p>(項目⑩)</p> <p>○児童と保護者の質問ともに早寝・早起きをしているかとあるが、家庭状況によって早寝・早起きと判断する時刻が異なるはずであり、その点で、肯定率は家庭の判断に大きく委ねられている。曜日の違いも左右してくる。質問文に補足として「睡眠時間～時間以上」とか睡眠時間を記載すれば違ってくるのではないだろうか。➡来年度の質問文の検討材料にいたします。</p> <p>○今の子どもたちの早寝・早起きには、電子機器の使用が大きく影響している。今まではテレビやゲームであったが、今後は、さらにYouTube等の動画が問題になってくるだろう。➡電子機器の使用については、動画も含め具体的なお願いや啓発をしていきます。その際には、できるだけ各ご家庭の実態に合うものを検討いたします。</p> <p>(項目⑩・⑪)</p> <p>○早寝・早起きや朝ごはんの習慣の育成は、基本的には家庭の問題であり、学校の様々な取組を成果につなげるためには、家庭の協力が必要である。早寝・早起きについては、全体的に保護者の肯定率が下がっている点が気になり、その要因をしっかりと分析する必要がある。学校保健委員会での取組をはじめ、学校として様々な取組を行っていることは評価できるが、家庭個々の事情も考慮しながら、さらに連携を密にして、生活習慣の改善に向けて根気強く取り組んでほしい。➡上記記載にもあるように、それぞれの家庭の事情を考慮しつつ、お願いや連携を進めてまいります。</p>											

【評価基準】 A：目標を達成 B：8割以上達成 C：6割以上達成 D：6割未満

※ 水色は肯定率がUp、桃色は肯定率がDown（中間期と比べて）

（※補足）評価資料欄の「児童1」や「保護者10」等の語尾の数字は、アンケート質問文の番号です。

重点 目標	○番号：評価項目 目標値（期待される結果）	評価	◇ 考察 ◆ 改善方策	期	評価 資料	個別 評価	肯定率 4+3	アンケート結果(%)				学校アンケート内容
								4	3	2	1	
（特色 いある学 校）	⑪【地域・学校】地域との交流・ 体験活動等は地域を愛する心を 育てているか。 目標値：児童・保護者・地域・ 教職員の100%が肯定	B	◇目標値は、すべての立場の評価の肯定率が100%だが、今回は「ご家庭6」が100%ではなかった。具体的な内容の回答は無かったため、自己評価として課題点を考えてみる。 今回は、12月上旬までの評価となるが、ご家庭・地域と関連した2学期の主な活動には、八朔相撲大会、稲刈り、運動会、親子の食育教室、人権・同和教育懇談会、県道花壇花植え、学習発表会、しめ縄づくりがあった。学年・学級ごとの活動を入れるとそれ以上となるので、9月から12月の4か月間の1か月平均は2回以上となり、数的には十分確保できている。アンケート結果でも子どもたちは中間期も年度末期も肯定率が100%であり、「肯定回答4」も増えており、たくさんの実施が成果を上げているのは明らかである。ただ、そのすべての取組を「地域を愛する心の育成」につなげられるよう、「消化」できたのかという点では心配である。 ◇自由意見には、「交流活動へ参加される方が同じ方になりがち」、「保育所との交流がもっとあればいい」、「地域の自然を生かす取組を」などの意見が出ていた。 ◆今後としては、活動後の子どもへの指導の時間やその指導を家庭や地域へ発信し共有する方法・機会の確保が考えられる。事前指導、本活動、事後指導・啓発の量的・質的なバランスを考えることが、さらなる改善につながると考える。 ◆自由意見からの具体的な改善としては、を参考に 「地域の誰もが参加しやすい活動」 「保育所との交流活動」 「地域の自然・人材を生かした活動」 を考えていきたい。	中間	児童16	A	100	78	22	0	0	地域の人や地域にあるもの、地域の行事が好きですか。 お子さんは、「緑地域を愛する心」が育っていると思いますか。 地域との交流・体験活動は、地域を愛する心を育てていると思いますか。 ふるさと学習、地域との交流、地域貢献など、地域を愛する心は育っていますか。
					保護者6	A	100	56	44	0	0	
					地域住民2	B	93	50	43	7	0	
					教職員11	B	80	40	40	20	0	
				年度末	児童16	A	100	65	35	0	0	98.5 ← 年度末肯定率平均
					保護者6	B	94	53	41	6	0	
					地域住民2	A	100	55	45	0	0	
					教職員11	A	100	75	25	0	0	
				学校運営協議会	(項目⑪) ○考察にもあるように、2学期は地域との交流や体験活動を数多く実施し、その成果が上がっていることは確かである。特に、教職員の肯定率がずいぶん上がっているのは、全教職員が目標達成に向け積極的に取り組んだ表れであると評価できる。改善策にも述べられているように、ただ多くの活動を体験させるだけではなく、その質を高めたり、事前事後の指導を充実したりしていくことで、子どもたちの心に残る活動にしてほしい。また、活動で学んだことを家庭や地域に広く発信することで、子どもたちに達成感や充実感を味わわせてほしい。➡ウィズコロナの時代を迎え、今までの活動も戻ってまいりました。そしてコロナ禍を経ての新しい活動もまた見えてまいりました。その新旧の活動から、これからの子どもたちの地域を愛する心につながる活動を精選し、楽しく継続性のある取組を進めてまいります。							

アンケート結果(その他)

		4+3	4	3	2	1	
規範意識	中	児童10	89	17	72	11	0
	末	児童10	94	29	65	0	6

(※補足)評価資料欄の「児童1」や「保護者10」等の語尾の数字は、アンケート質問文の番号です。

		4+3	4	3	2	1		
人権・同和教育	中間	児童7	94	94	0	6	0	あったか言葉を使っていますか。
		児童11	100	94	6	0	0	人に「ありがとう」と言われていますか。
		保護者8	100	44	56	0	0	お子さんは、人を大切にしている心か育っていますか。
		地域住民4	100	27	73	0	0	児童は人を大切にしている心か育っていますか。
	年度末	児童7	100	65	35	0	0	
		児童11	100	94	6	0	0	
		保護者8	94	53	41	0	6	
		地域住民4	100	36	64	0	0	

		4+3	4	3	2	1		
運動の習慣化	中間	児童15	100	78	22	0	0	運動は、好きですか。
		教職員10	100	20	80	0	0	運動好きな児童の育成
	年度末	児童15	76	64	12	24	0	
		教職員10	100	40	60	0	0	

		4+3	4	3	2	1		
教育環境の整備	中間	児童17	94	88	6	0	6	学校は、きれいで、落ち着いた場所ですか。
		保護者7	100	67	33	0	0	学校の「衛生的で、落ち着いた教育環境」が保たれていると思いますか。
		地域住民3	100	77	23	0	0	学校の「衛生的で、落ち着いた教育環境」が保たれていると思いますか。
		教職員12	100	38	62	0	0	学校は、衛生的で、落ち着いた場所ですか。
		児童2	100	94	6	0	0	コンピュータを使った学習は、楽しいですか。
	年度末	児童3	94	28	66	0	6	コンピュータを1日に何回使いますか。
		児童17	94	70	24	0	6	
		保護者7	94	53	41	0	6	
		地域住民3	100	69	31	0	0	
		教職員12	100	75	25	0	0	
児童2	100	94	6	0	0			
	児童3	76	24	52	24	0		

		4+3	4	3	2	1		
研修や自己研鑽	中	教職員14	87	25	62	13	0	研修や自己研鑽
	末	教職員14	100	38	62	0	0	

		4+3	4	3	2	1		
職場づくり	中間	教職員15	100	87	13	0	0	働きがいを感じますか。
		教職員16	100	87	13	0	0	働きやすい職場ですか。
		教職員17	87	74	13	13	0	校務支援システム等が業務改善につながっているか。
	年度末	教職員15	100	38	62	0	0	
		教職員16	100	62	38	0	0	
		教職員17	87	74	13	13	0	

		4+3	4	3	2	1		
と保護者・関係者	中間	保護者9	94	61	33	6	0	学校は、学級だよりやホームページによる情報の共有に努めていると思いますか。
		地域住民5	93	79	14	0	7	学校は、ホームページや学校だよりによる情報の共有に努めていると思いますか。
		教職員13	100	38	62	0	0	通信やHPでの情報発信、保護者・地域住民・外来者・電話への対応など
	年度末	保護者9	94	41	53	0	6	
		地域住民5	100	92	8	0	0	
教職員13	100	38	62	0	0			

4	3	2	1
3	13	2	0
5	11	0	1

17	0	1	0
17	1	0	0
8	10	0	0
3	8	0	0
11	6	0	0
16	1	0	0
9	7	0	1
4	7	0	0

14	4	0	0
1	4	0	0
11	2	4	0
2	3	0	0

16	1	0	1
12	6	0	0
10	3	0	0
3	5	0	0
17	1	0	0
5	12	0	1
12	4	0	1
9	7	0	1
9	4	0	0
6	2	0	0
16	1	0	0
4	9	4	0

2	5	1	0
3	5	0	0

7	1	0	0
7	1	0	0
6	1	1	0
3	5	0	0
5	3	0	0
6	1	1	0

11	6	1	0
11	2	0	1
3	5	0	0
7	9	0	1
11	1	0	0
3	5	0	0

【児童】

2学期がんばったこと	
<みんななかよし>	
○たくさんの行事の練習	○学習発表会(2)
<つよいからだ>10	
○運動会(リレー、徒競走、一輪車パレード③)(6)	
○体育の授業(8の字ジャンプ、縄跳びの二重とび)(2)	
○放課後の陸上練習(3)	○八朔相撲
<しっかり勉強>	
○音楽発表会(4)	○漢字
これから がんばりたいこと	
<みんななかよし>6	
○もっと大きなあいさつの声	○いろいろな人と話せるようになること
○挨拶や朝ボランティアなどの緑小学校の伝統をしっかりと引き継ぎたい	
○学校に行くこと	○たくさんの人と遊ぶこと
○学習発表会の劇	
<つよいからだ>7	
○マラソンの練習(6)	○走ること
<しっかり勉強>2	
○国語や算数のテスト	○英語

【保護者】

<ア 規範意識>	
○コロナが5類になり、秋祭りの練習と陸上や音楽発表会の練習など、時間の使い方が大変な時もありましたが、それも本人の成長につながったと思います。⇒行事や課外活動等の時期は、大変なご協力をお願いする形となってしまいました。その点も常に検討し取り組んでまいります。	
<キ 保護者・地域との信頼関係>	
○HPの更新も楽しみにしています。	
○行事予定、特に保護者が休みを取る必要があるものは、早目に教えてほしい。⇒急な日程の変更・決定、連絡の遅延により、ご迷惑をお掛けいたしました。今後、これまで以上に気を付けてまいります。	

【地域の方】

<イ 人権・同和教育>	
○日常的に子どもたちと接しておらず、判断しにくいので、2&4は、空欄にしました。4については、「読み聞かせ」や「行事」の後の感想を聞くと、「人を大切にしようとしている」ことが感じられます。⇒地域の方と子どもたちの交流につながるような活動や学校行事、また、それらをお知らせするホームページや各種だよりの工夫を常に考え続けてまいります。	
<エ 教育環境の整備>	
○校長先生を中心に校庭をきれいで美しい状態にされています。すばらしいと思います。	
<キ 保護者・地域との信頼関係>	
○ホームページにて学校の生活を見れるのでとても良い。写真もたくさんで、子どもたちの笑顔を見るのがうれしいです。	
○学校は、地域学習や交流活動に積極的に取り組んでいると思います。しかし、コロナ禍で地域の人たちの学校に対する関心が薄れてしまっているように感じます。いくら学校がホームページや学校だよりで情報発信に努めても見ていただく地域の方は減っているのではないのでしょうか。学校の思いや願いを理解し、協力していただく人を増やすためにも保護者や運営委員等だけでなく、できるだけ多くの人に学校の教育活動を見たり関わっていただいたりすることが大切だと思います。⇒地域の方と子どもたちの交流につながるような活動や学校行事、また、それらをお知らせするホームページや各種だよりの工夫を常に考え続けてまいります。 ※<イ 人権・同和教育>と同じ	